

9. 季カタル患者における T 細胞共刺激分子の発現に関する検討

角 環¹⁾・石田わか¹⁾・小島彩子¹⁾・楮佐古美奈¹⁾・海老原伸行²⁾・福島敦樹¹⁾

1) 高知大眼科・2) 順天堂大眼科

目的:我々はこれまでにマウス実験的アレルギー性結膜炎モデルを用いて重症アレルギー性結膜炎における T 細胞共刺激分子とそのリガンドの重要性に関して報告してきた。今回は春季カタル患者における T 細胞共刺激分子の発現に関し検討した。

対象と方法:外科的治療を必要とした春季カタル患者 4 例(男性 3 例、平均年齢 24.5±15.4 歳)の巨大乳頭と眼表面疾患のない硝子体手術患者 4 例(男性 4 例、平均年齢 51.5±27.5 歳)の健常眼球結膜を対象とした。採取結膜を抗 CD4 抗体、抗 CD8 抗体、抗 OX40 抗体、抗 4-1BB 抗体、抗 inducible co-stimulator (ICOS) 抗体、および正常ラット IgG1 で免疫染色し、その発現を検討した。

結果:春季カタル群では全例で粘膜固有層に CD4、CD8 陽性細胞を認めたが、健常群では 1 例のみに認めた。OX40、4-1BB、ICOS は春季カタル群では全例でその発現を認めたが健常群では全例でその発現を認めなかった。OX40、4-1BB、ICOS の染色強度をスコア化(0:なし～3:高度)すると春季カタル群は健常群と比べ有意に高値であった。また免疫蛍光染色において春季カタル群では OX40、4-1BB は CD4 もしくは CD8 陽性細胞に発現していた。

まとめ:春季カタル患者の結膜に OX40、4-1BB が強く発現していることから、これらの分子は春季カタル発症に関与していると考えられた。